

小委員会の終了報告 国際小委員会

1. 活動経過

本国際小委員会は、平成 13 年度活動報告に見られるとおり、2003 年成立予定のユーロコードなどの動きにも対応することが可能なように、積極的かつ迅速な活動を実施してきた。活動の舞台も、わが国の土木分野の専門家のみではなく、むしろ建築の構造系の専門家が中心となる ISO/TC98 国内委員会（建築・住宅国際機構）の場、さらには、2001 年 5 月のワシントン DC での第 19 回 ISO/TC98 委員会に代表される国際委員会の場、などにおける討論を重ね、これらの場における合意（コンセンサス）を得る形で、ISO/TC98/SC3/WG10（主査：日本）なる新たな ISO ワーキンググループの成立にこぎ着けた。

2. 成果の概要

国際小委員会は、今回具体的な成果が見える段階に至った「地盤基礎構造物への地震作用」以外にも、広く土木施設の耐震設計に関する国際標準化に向けた活動を行ってきた。しかし、ISO/TC98 を通じた議論の過程で、ISO3010「構造物への地震作用」に記述されている内容と明らかに異なると見られる「地盤基礎構造物への地震作用」を中核として国際標準化への作業を進めていくことが適当であるとの線で大方の合意が得られた。また、橋梁などをはじめとする土木構造物への地震作用については、ISO3010 の次期改訂を待つ形で進めていくことが適当との合意が得られている。

これらの合意形成およびこれに基づいて ISO/TC98/SC3/WG10 の新規成立にこぎ着けたことが、本国際小委員会の活動成果である。

あわせて、今後の ISO 活動を円滑に進めていく上で重要な鍵となると思われるユーロコード 8 執筆者グループ、APEC 設計荷重関係専門家グループなどとのコンタクトおよび情報交換についても鋭意実施し、ある程度のレベルで国際的な関連情報ネットワークの構築の見とおしが得られた。